

## 巨大科学に関する学術審議会への重大不正告発証言.

2018/12/20

[12/18 日学術審議会は直線加速器計画\(ILC\)に否定結論を答申](#)との報道が、筆者長年主張通りに**無駄素粒子実験投資**が回避された事は一進歩、だがこれで学術会議無罪とは行かない理由が以下、**巨額国民納付税金**を使い込めど、生きる為の科学研究が隠蔽抑圧事態にある。見るに近年の大学等の研究機関は取り締まりなき不正政府下で同じく不正研究告発なき不正機関に成り下がってる、納税者民間人は別途に識者有志を募り、生きるに必要な**科学学術監視+適正化の会**を作る必要が。民間企業の技術者+研究者+教育者等で不可能はないです。通信広報手段と検討会議ができればいいわけです。

筆者が彼ら等と交渉するに得た感触では**民間人に不正がばれないとみると確信犯として強行**、告発者真相価値を世間隠蔽となれば、告発者が危険にさらされる事態を招きます。

以下では(1)を例外に上から生活優先順位で問題科学を並べて見ました。

(1)**素粒子基礎論**は 1993~1995 年に完成、**以後の巨額実験研究は詐欺罪**、

\*1993/10 月に米上院で 1.2 兆円超伝導超加速器計画中止、以後米では加速器建設はない、1993/4 月に鈴木は素粒子論完成につながる第一論文投稿、公刊拒否。

@: ノベル賞科学者は以下を教えない。素粒子論も力学、**作用関数**決定後は一定算術で運動方程式、素粒子反応等の**力学系情報全部**が出る仕組み、その作用関数は重力場=等価原理(アインシュタイン 1917)=局所ロレンツ変換不変=**一般局所ゲージ原理不変**(内山 1956)と**一般ゲージ量子化原理**(ファデフ&ポポフ 1967)で一意決定、但し重力場に関しては一般曲線座標系では完全ゲージ場にならなかったが局所直交座標系では完全化(鈴木 1993)、

[http://www.777true.net/the-convergence-to-genuine\\_J111-Trial-on-The-Theisis-Yes-or-No.pdf](http://www.777true.net/the-convergence-to-genuine_J111-Trial-on-The-Theisis-Yes-or-No.pdf)

[http://www.777true.net/GRAVITY\\_FIELD\\_as\\_GUAGE\\_one.pdf](http://www.777true.net/GRAVITY_FIELD_as_GUAGE_one.pdf)

<http://www.777true.net/img008-Quick-Guide-to-Quantum-Gravitational-Dynamics.pdf>

(2)**気候変動科学**: 瀕死の隠蔽真相=科学者公開あらば救済技術建設開始も可能!

\* IPCC 国連気候変動科学諮問機関は強力温暖化ガス大量発生の北極メタン破滅リスクを隠蔽、既に北極は**氷層減少→太陽光海面積増大で海水温上昇→氷層減少→..**の破滅悪循環(**正帰還**)にあり、自然停止しない<科学者沈黙の原因>、だが大規模な人工雲による**太陽光遮断技術**、冬季海水氷上散布での**氷層厚増大化の北極冷却工学可能性**を無視、

<http://www.777true.net/Arctic-Methane-Extinction-is-Revealed-to-be-Operation-EndGame.pdf>

<http://www.777true.net/Arctic-Cooling-Engineering-the-Summary.pdf>

\* 不評炭素排出削減政策でなく、新エネルギー世界規模速攻転換普及は技術財政的にも可能、

@: 科学者による瀕死気候変動事実世界開示で**世界気候戦争宣言**あらば、速攻転換可能!、

<http://www.777true.net/100pct-Renewable-Energy-is-Possible.pdf>

<http://www.777true.net/Rapid-CO2-Absorption-with-Mineralisation-of-CO2-by-OLIVINE.pdf>

(3)地震電磁気学法による**直前(数日, 数週) 予知技術**、東大地震研究所が無視国策、  
上記気候変動は人類滅亡、地震では滅亡まではないと言えど目前脅威は確か、地震層超  
高压電気化学物理で判明する事だが**震源は大規模な電荷放出吸収反応**を起こす、これは**地表  
電荷密度-静電誘導電離層電子密度変動**を引き起こす。震源圧力緩和=震源電子吸収では  
地上は正電荷増大、電離層は電子濃度増大、この事実は多数観測例で証明されてる。

<http://www.777true.net/Short-Term-Earthquake-Prediction-by-Phenomena-of-Electro-Seismology.pdf>

@:電荷密度波による**人工地震兵器原理**、京大m u レーダ研究者は無視、地震兵器が脅迫手  
段に使用されてるは科学会&政界等での公然の事実、科学者による地震兵器世界開示で阻止  
可能、沈黙は敵脅迫協力の国家反逆罪！、

[http://www.777true.net/the-convergence-to-genuine\\_J54-HAARP-Plasma-Oscillation-Mechanism.pdf](http://www.777true.net/the-convergence-to-genuine_J54-HAARP-Plasma-Oscillation-Mechanism.pdf)

(4)**流体方程式解の時間経過不確定増大性**<カオス=長期予報困難化の真因>

流体方程式は気象(気候)予測の決定的道具、通常3日程度は**高精度予測**を実現、だが長期  
予測は一般に詳細高精度とはできない、従来原因は数学的非線形性にあるとされたが、  
これは間違い、流体間駆動力になる**摩擦力<流体衝突乱流化>**の不確定性に起因、運動エネ  
ルギが熱化してエントロピ増大=**情報喪失**が証明できる(鈴木 2013-web 開示)。

[http://www.777true.net/Information-Loss-Process-in-NS-Equation\\_The-Cause-of-Chaos.pdf](http://www.777true.net/Information-Loss-Process-in-NS-Equation_The-Cause-of-Chaos.pdf)

@:近年温暖化悪化で**冷気暖気-衝突**が頻発、そこでは局所流体強衝突=**乱流化**になり、  
**近日予測ですら精度劣化が分る。**

(5)巨視的気候変数(世界気温等,..)の乱雑性の真因。

世界平均気温年変化は区間時間平均では増大傾向、だが**短1期では上下乱動振幅、なぜか?**

<http://www.777true.net/Uncertainty-Causes-in-Climate-Dynamics.pdf>

熱伝達貯蔵の大気海洋水は流体運動、上記(4)からマイクロサイコロ運動で、巨視的乱動運動  
はその**加算性**に起因<確率変数和の乱動性=中心極限定理で正規分布>、

(6)**超高率エネルギー技術**<非主流派一般人の尽力成果であり、科学界公認がない裏切り>。

パルス電気分解による超高率水素生成、

単極発電法による超高率発電

電荷密度波発電

<http://www.777true.net/Energy-Creation-Process-from-QED-to-QGD.pdf>

(7)**電荷密度空間触媒理論**<鈴木論文公刊拒否>、

白金触媒常温核融合は近年世界認知にあります。

<http://www.777true.net/img0010-General-Analysis-on-Room-Temperature-Nuclear-Fusion.pdf>

<http://www.777true.net/Real-Image-of-quantum-Chemical-Reaction.pdf>

### (8)第一原理による<非模型理論>経済回路網理論.

帳簿は全経済を記述<会計原理>, 帳簿変数で経済回路網記述<電流=売買取引>、

唯一例外が市場規模<経済核心部>変数 $N_j$ ; 印刷紙幣ばらまきは堅気がやる事ではない、

(a)  $N_j P_j = \omega_j I$  <供給量 x 価格 = 需要強度 x (可処分所得 ~ 通貨供給量)>

(b)  $0 = (d/dt) \sum_j [\omega_{jj} I_j - D_j] = (\text{年間増}) [(\text{余剰総額} \sim \text{債券}) - \text{負債総額}]$ .

日銀印刷通貨増量で供給価格増(株高仮想景気)(a)が図れるが、印刷増は日銀政府負債増で後の大禍に(金融0サム定理(b))、大気累積二酸化炭素増も負債同様で、後の絶滅惨事に、

<http://www.777true.net/Quick-Guide-to-Economy-Network-Dynamics.pdf>

### (9)量子確率過程力学:

既成ミクロ物質科学基礎=量子力学は定常系と散乱系は完成、時間発展に関しては未完成、量子過程のマルコフ性証明<マスター方程式>と揺動進展原理<エネルギー揺動による反応時間>、閉鎖系の緩和理論=熱力学第二法則証明、開放系マスター方程式と流れ振動<未完成>、

<http://www.777true.net/phys-hidden.pdf> ,

<http://www.777true.net/img007-Quick-Guide-to-Quantum-Stochastic-Mechanics.pdf>

筆者鈴木初期 1990 の仕事、かく科学重大基礎を公刊拒否隠蔽とは?!、誰の為の科学?!!

.....

### (10)ゲーデル不完全性定理の統計現象証明.

科学に於ける真偽非決定問題は中身吟味もせずに過去に大センセーション、**不完全性定理は、ジョン・フォン・ノイマンなど当代一流の学者の激賞を受け、「人間の理性の限界を示した」とも評されている。** その実態は確率統計現象、深くは自然数 $\infty = 1/0$ の**非決定性**<特異点>に由来する情報喪失=確率化. 現実素粒子反応の確率性は反応演算子(佐藤超関数)積の特異性(非定義)に由来、実数0は無にして無でない矛盾性←**標準理論素粒子体積0**での理論整合性、ちなみに素粒子超弦理論は現実成果を何も見ていない、

<http://www.777true.net/Goedel-Chaos.pdf>

@:ゲ-デル原著論文 1930 では自然**数論**を含む公理体系(=理論)は不完全と言う命題、なれば数論自体に不完全性がある、それは **$\infty = 1/0$ の非決定性**しかない!!<具体証明終わり>、

\*ゲ-デル同志は完全性定理発表 1929 以後、体制から弾圧を、そこで不完全性定理を強行、ユダヤ人でもなかった彼はオーストリアから米に亡命します

### (11)真空世界の全知全能万能性.

物理真空では無から有(素粒子-反粒子)が同時生成、瞬時に無に復帰の**真空偏極反応**が世界公認、だが真空偏極反応が論理矛盾実現を指摘する人はいない。論理学定理によれば一度、矛盾実現<**相手は真空**だから直観測にかからず=**0確率、理論崩壊にはならない**>すると**任意命題が真**<=実現、だが**相手は真空**だから直観測にかからず>になる、

<http://www.777true.net/Proof-on-God.pdf>

<http://www.777true.net/Scientifical-Mechanism-of-Prophecy-by-Paranormalities.pdf>

